

区政のここが聞きたい

一般質問と答弁 要旨

●詳細は、目黒区議会会議録または区議会ホームページの会議録検索をご覧ください。



目黒区の魅力の発信とともに 対応をしっかりと考えよ!

自由民主党目黒区議団 いその 弘三 議員

<2020オリンピック・パラリンピック に向けた取組み>

2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、また昨今の円安なども含め、日本への観光者は上半期過去最高のおよそ913万人と言われ、今後目黒を訪れる外国人観光客も今まで以上に増えると思われる。(1)目黒区の魅力とは何か、その見解と取組み状況について伺う。(2)都や特別区と連携した、観光に関連した芸術文化分野の展開について伺う。(3)外国人観光客に対する区の対応を伺う。

区長 (1)都心に近く、「みどり豊かで文化的なまち」「おしゃれなまち」というイメージが定着し、旧前田家本邸や目黒天空庭園などの観光資源がある。今後は多様な情報発信とあわせ、多言語対応、外国語が堪能なガイド育成に向け、関係機関と連携して施策を展開していく。(2)都からは、都内の芸術文化施設が連携した企画展、夜間の時間帯に観覧できる体制作りについて協力を求められている。区は、「文化の香り高いまち」目黒を実感できるよう、様々な工夫を凝らしていく。



ユニバーサルデザインの視点で 住みよい目黒を!!

公明党目黒区議団 佐藤 ゆたか 議員

<バリアフリー拡充>

(1)東京オリンピック・パラリンピック大会に向けたバリアフリー化等が一過性でなく、地域に根付いた誰でも移動しやすい街、総合庁舎となるよう、ユニバーサルデザイン(※1)でのバリアフリー拡充が必要である。(ア)総合庁舎内に点字ブロックを設置できないか伺う。(イ)フロア案内板を見やすくできないか。(ウ)庁舎入口を色で表した誘導サインの設置に

ついて伺う。(2)心のバリアフリー(※2)の効果を改善が見られない。より積極的に取り組むべきである。(3)権之助坂の横断歩道は、高齢者が疲れて渡りきれないなどが予見される。信号待ちの間に休めるスペースを確保できないか。

区長 (1)(ア)現在の案内方法は、東京都福祉のまちづくり条例に適合している。利便性、必要性等から点字ブロックの拡大が必要と判断された場合でも、多額

(3)観光ビジョンに掲げている「おもてなし」プログラムを推進し、冊子の多言語化、SNS(※)による観光スポット等の情報発信を進める。

<保育園に関して>

(1)昨今、目黒区は保育園の整備を積極的に進めてきている。一方で区民との摩擦によって設置がうまく進められないなどの状況も起きているが、どのような解決策を考えているのか。(2)保育士への処遇改善策が実施されるが、保育士の充足について見直しを伺う。(3)申請要件・保育指数・調整指数について伺う。

区長 賃貸型認可保育所開設では、事業者が提案段階で一定範囲に周知する公募要領の見直しを検討している。国公有地の場合は、説明会等で把握した意見・要望を公募要領に盛り込み、事業者が対応できるよう、様々な工夫を凝らしていく。

の経費を要することから、将来庁舎の改修工事を行う際にあらためて検討する。(イ)(ウ)開設当初、総合庁舎は各階ごとにフロアの色を決めサイン計画を行った。その後、様々な意見をいただき現在の状況に至っている。将来的にサイン等の改修が必要と考えているが、今後の改修工事時期を捉え検討する。(2)通行の妨げになる状態の改善と、心のバリアを取り除く啓発活動は区の責務であるため、一層の啓発活動などに取り組む。(3)町会、商店街等と連携を図りながら、引き続き都と調整を行い、安全・安心な歩行環境の創出に取り組んでいく。

区長 (1)傾聴ボランティアの育成は、社会福祉協議会で年3回実施している。今後も講習を継続・充実し、ボランティアの育成やスキル向上に努めるとともに、社会福祉協議会と協議し、実践の場を確保できるよう必要な支援を行う。

<傾聴ボランティアの育成>

孤独感や不安感を抱えた高齢者の増加が予想され、傾聴ボランティア(※3)の育

(3)感震ブレーカー(※)の設置を要配慮者に普及させていくためにも、助成制度を作るべきだと考えるが、いかがか。

区長 (1)在宅ケア多機能センターなどを新たに指定する予定。また、安全性が確保され、必要な条件が整った民間事業者と協定を締結し、国のガイドラインを満たす福祉避難所の拡充に努めていく。(2)区任用制度や効率的運営の面から、地域包括支援センターの一部直営化は適当でない。災害対策は、地域と連携協力し、実効性ある支援体制の整備に努める必要がある。(3)各メーカーの感震ブレーカーを比較検討し、助成制度のあり方について引き続き調査研究していく。

<契約制き>

(1)最低賃金の保障など、区自身が雇用を守り地域循環型の経済にしていくために、公契約条例の制定を早急に進めるべきだが、いかがか。公共工事にかかわる建設労

育士の処遇改善が確保策の大きな要素と考えており、処遇改善を進めることで保育士の確保・定着も進んでいくものと思う。(3)保育の必要性が高いかたに利用してもらえるように、適切な指数のあり方を引き続き検討し、見直しを行っていく。

<自転車駐輪場>

区の自転車駐輪場は、平置き方式、サイクルラック方式平置き及び二段式タイプ、自動地下式、地上式駐輪場などいくつもの方式があるが、昨今の「子ども乗せ自転車」の駐輪対応について伺う。

区長 大型自転車の利用状況を把握し、現在の収容台数を維持しながら、設備の改善を行う。また、駐輪場の改修の際には、大型自転車に対応できるよう整備する。

【用語解説】
※SNS：人と人とのつながりを促進・サポートするコミュニティ型のWeb(ウェブ)サイト。

成が重要になってくる。ボランティア育成とスキルアップについて見解を伺う。

区長 傾聴講習は、社会福祉協議会で年3回実施している。今後も講習を継続・充実し、ボランティアの育成やスキル向上に努めるとともに、社会福祉協議会と協議し、実践の場を確保できるよう必要な支援を行う。

<【用語解説】>

- ※1 ユニバーサルデザイン：年齢や障がいの有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすること。
- ※2 心のバリアフリー：高齢者、障害者等が安心して日常生活や社会生活が出来るように、施設整備(ハード面)だけではなく、高齢者、障害者等の困難を自らの問題として認識し、心のバリアを取り除きその社会参加に積極的に協力すること。
- ※3 傾聴ボランティア：高齢者など悩みや寂しさを抱える人の話を真摯に聴くことで相手の心のケアをする活動。

働者の保護強化を。(2)区の公共工事において、労働者保護対策を文書を作成して指導するとともに、建設業退職金共済制度の共済手帳への証紙貼付を、区としてチェックすべきだと思うが、いかがか。

区長 (1)条例制定は、労働条件向上の問題は法律で対応すべきとの認識のもと、他自治体の動向を踏まえ研究課題としてきた。今後も、法令順守の徹底など労働環境の確保に努め、さらに深く研究・検討を進める必要がある。(2)区には、文書による指導権限がないため、法令順守が徹底されるよう業界団体へ要望していく。また、建設業退職金共済制度は任意加入であるため、業界団体との懇談などを通じて加入促進を呼びかけていく。

<【用語解説】>

※感震ブレーカー：地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に「配線用ブレーカー又は漏電ブレーカー等」を遮断する器具。



安心・安全の学校づくり! 特色を生かした目黒の教育を!

民主党目黒区議団 吉野 正人 議員

<ISS認証に向けた取組み>

ISS(※1)認証により、子どもたちを取り巻く様々な危険の未然防止、安心・安全の学校づくりをせよ。

教育長 現在、ISS認証取得に向けた検討は行っていないが、地域・保護者と連携・協力し、安全で安心な学校づくりの取組みを一層充実していく。

<中学生の頭部保護用ヘルメット導入>

小学生は防災ずきんがあるが、中学生には頭部を保護するものがない。中学生全員へ防災ヘルメットの導入を図れ。

教育長 中学生は、制服やカバンによる頭部保護を基本としているが、避難所等での活動用に配備している生徒用ヘルメットの有効活用を図っていく。

<アンガーマネジメントの導入>

アンガーマネジメント(※2)を導入し、教員、児童・生徒、保護者が共通理解を深め、落ち着いた環境で教育の充実を図れ。

教育長 怒りの感情をコントロールすることは、より良い人間関係を築く上で重要であるため、アンガーマネジメントの考え方を取り入れた指導の充実を図る。



時代にマッチした、 子ども達への施策展開を!

維新の党・無所属目黒区議団 小沢 あい 議員

<国際化教育の推進>

グローバル化が進む現代社会において、子ども達の国際的なコミュニケーション能力の養成や多文化共生の意識向上は、必要不可欠な要素である。そして、文化や歴史を適切に理解しなければ、その言語の習得もはかどるものではない。港区や

新宿区では、国際交流や多文化共生のための事業を積極的に推進しているが、目黒区を取組み状況と今後の展望を伺う。

教育長 自らの考えや意見を発信し、行動できる能力を身につけるため、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指して外国語教育の充実を図っている。



情報公開により、子どもの 育ちを守り地域力を活かせ

未来倶楽部・生活者ネットワーク 広吉 敦子 議員

<市民参加を進めよ>

(1)情報通信技術が進む中、時代に合った区と区民との協働を目指すべき。(2)「説明会」や「懇談会」を単なる説明会に終わらせるのではなく、職員はファシリテーション(※)力を磨き、市民力を引き出す場とすること。また「ともに作るみどり豊かな人間のまち」目黒を実現するために、計画段階から区民に情報公開を行うこと。

区長 (1)地域とともに課題解決を目指

すことは、区への愛着が深まることにつながるが、課題やテーマ、目的等によって、より適切な住民参加手法の選択が必要と考える。(2)区民の思いをくみ取り、区民ニーズを把握し、効果的な施策を実施することは職員の責務である。区では総括係長等を対象に研修を行っており、今後も引き続き職員の育成に努めていく。計画段階での情報公開については、できるだけ早く行っていきたい。



女性活躍を進めよ! 東京音楽大学と連携した街づくり

鴨志田 リエ 議員

<女性活躍支援法に実効性を>

目黒区議会女性議員比率は23区1位の41.6パーセントに躍進した。区職員の女性割合55パーセントに対し、女性管理職比率の低さは変わらない。(1)女性管理職を増やす行動計画内容について伺う。

(2)女性活躍推進に係る協議会設置をどのように考えているか。(3)キャリア形成支援を広げる取組みについて伺う。

区長 計画内容等の検討を進め、今後国から示される「特定事業主行動計画策定指針」に沿って内容等を固めていく。(2)既

<午前5時間制の今後の展開>

区立小学校の一部で導入している午前5時間制の成果と課題、及び特色ある目黒の教育としての今後の展開を伺う。

教育長 効率的学习で学習の理解度が深まる一方で、時間を要する教科を時間内に収めること等が課題。現在、午前5時間制を導入している各小学校の成果・課題を整理し、さらに詳細な研究を進める。

<保育園版めぐろ子ども見守りメール>

めぐろ子ども見守りメールの保育園対応版を導入し、保護者が安心できる環境づくりに取り組め。

区長 学校、学童保育クラブとは、保護者との関係や運営事情が異なるため、導入に係る課題を整理した上で、保育園への見守りメールの導入が必要かどうか十分に検討していく。

さらに、総合的な学習の時間等を通じて、文化や歴史を理解した上で、共生できる態度や能力を養っている。21世紀の国際社会を生きる子ども達が、異なる文化や価値観等、立場の違いを認め合い、国際社会を生き抜く異文化コミュニケーション能力の育成に努めていく。

<発達障害者支援>

平成17年に発達障害者支援法が施行されてから全国的な取組みが進められている。しかし、年々増加する対象者に対して相談窓口が不足しているなど、体制面での遅れが目黒区でも指摘されている。目黒区における発達障害児や発達障害者へ

<子ども教室を全校で実施せよ>

(1)地域の人材を活用した子ども教室を、早期に全小学校で実施すること。(2)地域に開かれた学校の実現と質の向上のために、既存の実施校の運営ノウハウや情報・アイデアなどを共有し、連携するための協議会を開催すべき。子ども教室を区内に広げること人材発掘のために、情報をまとめ発信せよ。

教育長 (1)現在、13小学校で実施。教育行政運営方針、子ども総合計画などで事業充実の方向性を掲げており、順次拡大に取り組んでいる。(2)各実施団体の代表が、年2回「子ども教室推進会議」を開催し、情報、アイデアの共有に務めているほか、相互の教室見学の本格実施に向け検討を進めている。また、幅広い情報発信、最新情報の周知で、子ども教室に関心

を持っていただくよう努める。

<保育園の年度途中入園を可能に>

4月入園は実態に合わないため、年度途中の入園を可能とせよ。新設保育園も年度途中開園を可能とすること。育児休暇を切り上げることなく入園できる環境を整えよ。

区長 今後、認可保育所整備運営事業者の選定に至った場合は、年度途中での開設について事業者と協議していく。年度途中の開設は、保育者確保が困難などの課題があるが、保育園の早期開設を望む保護者の声に応える努力をしていきたい。

<上目黒一丁目地区プロジェクト>

(1)文化と緑豊かな上目黒のJR跡地は取得後20年間活用されずに40億円を越える税金を費やした経緯を検証し、意思決定のあり方や今後の区有地活用に活か

<羽田空港新飛行経路対応>

本区上空を通過予定の羽田空港新飛行経路についての現在の対応状況と今後の騒音対策、落下物対策について伺う。

区長 7月30日から3日間、勤労福祉会館で区が説明会を開催し、11月の特別区長会総会では、これまでの結果報告と今後の予定について説明があった。来年1月には、総合庁舎で説明会開催の予定。区は、国・都に対して適切な情報提供と丁寧な説明等を引き続き要望する。

<【用語解説】>

- ※1 ISS(インターナショナルセーフスクール)：(体および心の)ケガ及びその原因となる事故、いじめ、暴力を予防することによって、安全で健やかな学校づくりを進める活動。
- ※2 アンガーマネジメント：混沌とした気持ちを整理したり、状況を客観的に見る力を育てることを通じて、衝動性が高まって自分でも沈黙化し適切な表現や問題解決ができるような力を学ぶプログラム。

の支援体制、地域社会での発達障害に対する理解促進、普及啓発は、どのようなことが課題であると考えているか。

区長 本区では、発達障害者に特化した事業ではないものの、障害者支援施策の中で、発達障害者も含めた支援に取り組んできた。本区における発達障害者の支援や、発達障害に対する地域社会の理解は十分でなく、相談窓口の設置、居場所の提供、家族の交流の場の提供や障害理解のための情報発信など、今後取組みを強化していかなければならない課題も多岐にわたると認識している。

注：会派名は、一般質問を行った時点のものです。

<【用語解説】>

※ファシリテーション：企業や学校、地域のコミュニティなどの組織の会議などでグループ活動が円滑に行われるように、中立的な立場から支援を行うこと。

決定した。平成31年開校に向けて地域特色を活かした計画を推進し、芸術の街として中目黒を発展させる取組みを伺う。

区長 (1)区民の貴重な財産である区有地の活用に当たっては、これまでの経験を活かしながら、財政状況も十分考慮し、区民福祉の向上と区政の課題解決につながるよう検討していきたい。(2)中目黒周辺地区の将来像の実現に向け、整備計画に基づき、事業者と調整・連携を図りながら街づくりを進めていく。

<【用語解説】>

※ファシリテーション：企業や学校、地域のコミュニティなどの組織の会議などでグループ活動が円滑に行われるように、中立的な立場から支援を行うこと。